



学校便り 8月号

かけはし

薩摩川内市立里小学校 薩摩川内市里町里 1601 TEL 09969-3-2008
発行 令和5年8月21日 責任者 校長 永野 俊也

学校HP



学校ブログ



里周辺海水温
30℃(8/6)

9月1日は防災の日！

8・6水害から30年 あの日を思う

校長 永野 俊也

さあ、夏休みもあと10日となってきました。子供たちはこの夏、きっとキラキラとした思い出をいっぱい手にしていることと思います。それにしても地球温暖化の影響なのか、年々夏の日差しが厳しくなっているように感じます。2学期のスタートに向け、屋内にこもりがちだった人は、体を慣らしていくことが必要かも知れませんね。

ところで、今年は8・6水害から30年になるとニュースで知りました。「もうそんなに経つのか…」と思いました。あの夏は冷たい夏で、7月に発表されていた梅雨明け宣言が取り消され「梅雨明けは、はっきりしない」というぐらい、雨が続き、続けざまに台風も襲来しました。当時20代後半で2校目となる垂水中学校に勤務していた私は、8/6午前の部活を終えて、当時住んでいた鹿児島市の紫原(高台にあります)にフェリーで帰っていました。雨は午後から一段と激しさを増していきます。それまで降った雨もすごく、8/1豪雨の土石流で、九州自動車道はすでに通行止めとなっていました。

テレビをつけると、各地の豪雨被害状況が刻一刻と報じられています。夕方が近づき潮位が満潮となると、甲突川をはじめとする河川が一機にあふれ出し、市街地を飲み込んでいきました。当時甲突川沿いの学校に勤めていた後輩は、校舎の四階から校庭にぷかっと浮いて流れていく自分の車を見送ったと話していました。私のところにも中央郵便局に勤めていた友人から救助要請がありました。とても動ける状況になく、救助に向かったのは潮位が下がり、川の水が引いた夜中0時を過ぎてからでした。途中何台も水没して動けなくなった車があり、それをすり抜けるように泥に車輪を取られながらも、車を走らせ救助に向かいました。雨はやみ、川の水も引いていましたが西鹿児島駅(現中央駅)前の広場には膝下まで泥が堆積し、別世界となっていました。

その後困ったことは、1週間断水したことです。雨水もバケツで風呂に蓄え、トイレのタンクに移して使いました。そして自衛隊や水道局の給水車がまわってくる度に、容器を持って列に並びました。9月となり追い打ちのように大型で非常に強い台風13号が南九州に上陸し、港は流木で埋め尽くされ船が着くことができず、台風が去っても3日間学校へ通うことすらできませんでした…。

温暖化が進み、50年に一度や100年に一度といった自然現象が日常となりつつある今、私たちは防災についての意識を高め、備えておくことはとても大切なことだと思います。9月1日は2学期スタートの日ですが、ちょうど100年前のこの日、関東大震災が発生し10万5千人もの死者行方不明者が出ています。そのことを忘れず教訓とするため、防災の日指定されています。地震はその発生形態により、被害の状況が異なりますが、ちょうどお昼時、火を使う家庭が多い中の地震であったため、この震災では火災による死者が最も多かったそうです。

そして、避難に適する場所として、多くの人が集まり身動きがとれなくなっていた陸軍本所の広場には、折からの強風と火災により発生した火災旋風が襲い、この場所だけでも3万5千人と多くの方が亡くなりました…。

災害で亡くなられた方々の冥福を祈ると共に、その教訓を生かし、起こり得る災害に対し、できる限りの備えをし新学期を迎えよう。そういう気の引き締まる節目の年となりました。



玉石アート教室

7/28(金)に、玉石アートの教室を開催しました。

里産の玉石に、好きな物や里の風景、生き物などを自由な発想で浮かんだアイデアを思い思いに描いていました。

できあがった作品は、トンボロ芸術祭へ出品する予定です。

里の鮮やかな光景の一つとして、里の秋を彩ってくれます！



9月行事



- 1日(金) 始業式・大掃除・身体計測
- 2日(土) 生活リズム指導週間(～8日)
- 4日(月) 純心大インターンシップ(～8日)
- 5日(火) 全体練習(1校時)ALT
- 6日(水) 委員会活動
- 7日(木) 学級PTA
- 8日(金) 小中合同練習(3,4校時)ALT 来校
- 9日(土) 土曜授業
- 11日(月) 全体練習(1校時)
- 12日(火) 中期ふるコミュ(2,3校時)
- 13日(水) クラブ活動
- 14日(木) 小中合同練習(3,4校時) 遮断かのこゆり号来校
- 15日(金) 全体練習(1校時)
- 19日(火) EST来校
- 20日(水) 運動会予行(2~4校時)
- 21日(木) 全体練習(1校時) 運動会準備(5,6校時) ALT来校
- 24日(日) 合同運動会
- 25日(月) 振替休日
- 26日(火) EST来校



俳句教室

8/18(金)に、以前里小学校にいらした、成尾先生をお招きして、俳句教室を行いました。

子供たちが感じたことをどのようなことばで表現したらよいかアドバイスをもらうことができました。

夏休みの素晴らしい作品ができあがりました。

PTA美化作業

8/20(日)に、PTA美化作業を行いました。宮内建設、株式会社ヒラミネ、有限会社シオタ、からトラックを、野島電工から高所作業車をお借りして、木の剪定や草木の運び出しを行いました。



きれいになった環境で、2学期も子供たちが元気いっぱい活動してくれたらと思います。

御参加いただいた皆さんありがとうございました。



今月の付録

示現流と鞍馬楊心流が、もし対戦したらどうなるの？ (その3) 創立 150 周年記念誌をより深く楽しく読むために♪

さあ、このタイトルの付録は今月号で完結です。いよいよジゲン流(示現流・自顕流)と鞍馬楊心流が、もし対戦したらという考察に入ります。その本題に入る前に、再度、鞍馬楊心流の剣術について、その特徴を見ていきましょう。対戦は刀を想定して、3尺棒同士と仮定します。(あくまでも私見ですので、その点をご了承ください。)



図1 袖棒 1

図1は、ジゲン流の蜻蛉に対して、鞍馬楊心流の基本形 **袖棒** です。剣道では上段に構える際、右足が前にありますが、ジゲン流、鞍馬楊心流共に左足が前にあり、その点は共通します。次に剣に対しての考え方ですが、共通するのは簡単に刀を抜くなど戒めていることであり、争いごとは話し合いで解決することが大切としていることです。しかしながらジゲン流が一旦刀を抜くと、一撃必殺と相手が死ぬか、自分が死ぬかという命がけで初太刀を打ち込む攻めの剣、剛の剣であるのに対し、鞍馬楊心流は、自分から攻めることをせず、しなやかに相手の攻撃を受け流し、相手の動きを封じる柔の剣です(命を奪うより、動けなくすることに重きがあるように感じます)。

鞍馬楊心流は、もともと楊心流(柔術)から派生した総合武術というだけあり、どの立ち会いを見ても重心が丹田(おへその下、体の中心)にあり、重心が低く、強力な打撃を受け止め、いかようにも動ける体勢であるように思います。

基本的な立ち会い動作を見ると、図1の基本形で相手と初太刀を交えると、次の2の太刀では間合いを開き図2の袖棒2に移行します。相手が左右どちらからでも斬りかかると、体の先に伸ばした刀で相手の刀を受け流し、そのまま抜き胴で左に抜け、振り返りざま相手の背後にまわり、すぐ動きを封じに入ります。

もしくは、抜き胴で左に抜けるとみせかけ、相手が警戒するところを逆手に取り、自分の刀を四としながら右に抜けつつ、相手の刀を持った腕を取り、そのまま関節技で刀を落としながら組伏してしまいます。まさしく柳のようなしなやかさです。

そして、それぞれの剣術の練習法を考えてみても、ジゲン流がひたすら立ち木を打ち込み、パワーに磨きをかけるのに対し、鞍馬楊心流は現代の柔道にも通じる柔軟性と鍛錬し強度上げた剣術を、一つ一つ習得しながら、互いに技をかけあい修練ができたのではないかと思います。

さあ、ここでいよいよジゲン流との立ち会いです。

幕末最強と言われたジゲン流 そのパワーを正面から受け止めると、鞍馬楊心流といえども一溜まりもないでしょう。ジゲン流は叫びながら走ってきて上段蜻蛉からの斬撃、もしくは下からの抜きによる攻撃です。しかも、ジゲン流には後ろにさがるという考えがないので、斬撃を繰り返しながら前進あるのみです。

まるで、ブルドーザーが突進してくるような迫力でしょう。ですから初太刀を受け止められたとしても、図2へ間合いを開くこともさせず斬り込みながらなぎ倒してくるでしょう。では、勝機があるとすれば… それは新撰組 土方歳三 が「初太刀をはずせ!」というように、初太刀をかわすことができれば、鞍馬楊心流の術中へ、引き込むことができるかもしれません。

また、屋内のように狭い場所では、ジゲン流のパワーと突進力が発揮しづらくなります。示現流はもとより、技の少ない自顕流にも小太刀(脇差)の技はあり、実際薩摩藩士同士が凄惨な殺し合いを行った池田屋事件では、屋内であってもジゲン流が対応することを証明しています。しかしながら、技の柔軟性と多彩さでいえば、屋内では鞍馬楊心流の勝率が高まるのではないのでしょうか。

そのシンプルさゆえに、幕末その破壊力を発揮した自顕流ですが、技が多彩で習得が容易でなかった示現流、その高度な技を取得した高段者になれば、自顕流を凌駕する者もいたでしょうし、鞍馬楊心流もまたしかりと思います。

幕末、鞍馬楊心流第二代、塩田甚太夫は 17,8 歳の頃、島津の役人が村の女子にちょっかいを出したのを懲らしめて、奄美大島に 15 年の流刑となっています。相手がジゲン流を使っていたかはさだかではありません。しかしながら、当時、同じ奄美大島に流されていた西郷隆盛、重野安繹(やすつぐら)と共に、徳と学問、武術をこの3人が伝えてくれたと奄美郷土史の記録に残っています。すてきな話だと思いました。

里の誇り 鞍馬楊心流 これにて完 です。

鞍馬楊心流宗家 塩田耕大郎氏 より お言葉を頂きましたので、掲載いたします。

里小学校創立150周年記念誌を発行された、永野校長先生に敬意を表する次第であります。

また、学校便り「かけはし」に薩摩の示現流と甕島里においての鞍馬楊心流をとりあげて頂きありがとうございました。

鞍馬楊心流は、初代甚太夫から耕大郎(甚齊)で七代目になりますが、時代の流れと共に古武道を続けていくことはとても困難なことと感じています。しかしながら、里の歴史と共に、これからは皆様方の心に残り、精神的な糧になってもらえたらありがたいと思っています。

令和5年8月16日

鞍馬楊心流宗家七代目 塩田 耕大郎



図2 袖棒 2